

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	豆の木		
○保護者評価実施期間	2025年 3月 15日 ～ 2025年 3月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14 (回答者数)	9
○従業者評価実施期間	2025年 3月 15日 ～ 2025年 3月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 4月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保育園との連携	運営するわんぱく保育園からの入所が100%のため職員同士の連携がスムーズに行える。週に4回、豆の木の職員が保育園へ支援する子のモニタリングや保育生活を共有したりしている。 保育園と豆の木で特別支援委員会を立ち上げ、日々の連携に加え月に1回、さらに総括のための会議を行っている	現在特別支援委員会でその子の個別の特性を大まかに理解するため見える化したグラフの活用に取り組んでいる。
2	自前の畑で行う食物や果物の栽培	土いじりを通した情緒の安定や感覚の統合 自園の畑を活用した野菜栽培を通した季節感や情緒の獲得 またおにぎりをおやつとしている	現在も栽培を行っているが、まだまだ種類を増やし、子供たちの希望する食物などを育てていきたい。
3	充実の室内スペース	現在定員10名だが、規程であればその4倍の園児の受け入れも可能。 ごっこ遊びなどで情緒の発達や言葉の発達、ロールモデルなどを自然と学習できるよう、様々なコーナーを作ることに取り組んでいる。	開所1年半を迎えたばかりのため、環境設定が仮り設定となっている感じが否めない。そのため衝立やおもちゃなどしっかりしたものを導入していきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の専門性	書類などを行う正規職員の職員数の不足により、書類時間などに追われ、研修などが行えない。さらに導入したい療育方法など共に学ぶ時間がさけない。	現在、本部のほうで様々な方法で人材確保に努めてもらっているが募集もなかなか来ない状態。ICTを今以上に活用するなど書類業務を簡素化し研修時間、勉強時間にあてていきたい。
2	外部講師の招致や研修の実施	現在、保護者支援の一環である勉強会や講座などの開催ができていない。1に記載した内容にも通ずるが、各個人個人が学ぶことで、保護者へ知識の還元が行えると思う。	まずは計画をたて、前期までには行いたい。特に保育園では生じなかった障害児の性の問題は早急に保護者への講座開設していきたい。

3	個別支援プログラムのフィードバック	現在、こぐとレ、絵カードなどを行ってはいるが、保護者へ具体的なフィードバックが行えていない。	現在、連絡帳では情報がリアルタイムで行うことができるが、療育結果のフィードバックをグーグルワークスペースなどを使用し、適宜にフィードバックを行う
---	-------------------	--	--